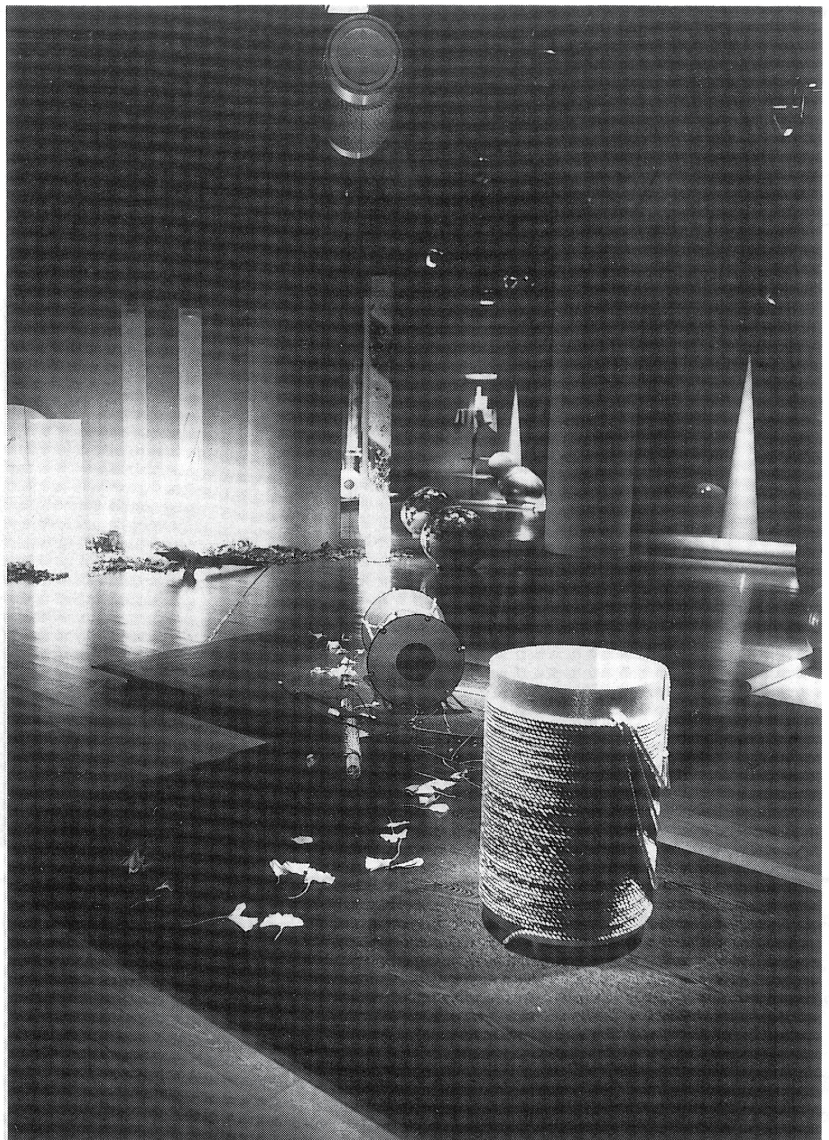


唐澤誠氏個展

和のスピーカーと空間融合性の追求

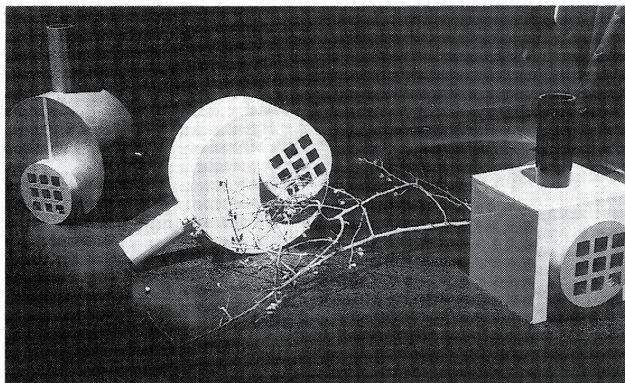


我々オーディオマニアはオーディオシステムのフォルムを大事にする。特にスピーカーシステムについては、ホーン型であったり大形のウーファーが付いていたりして、それらしい顔をしていなければマニアの持ち物ではないような言われ方をすること

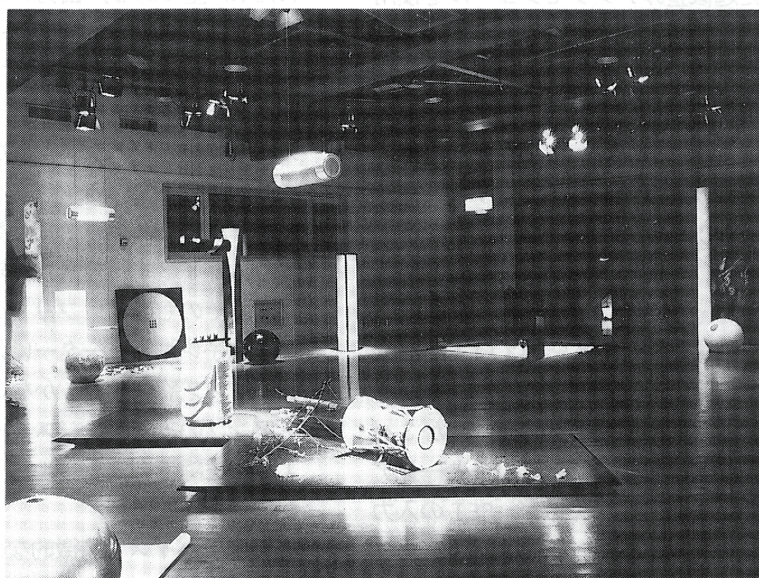
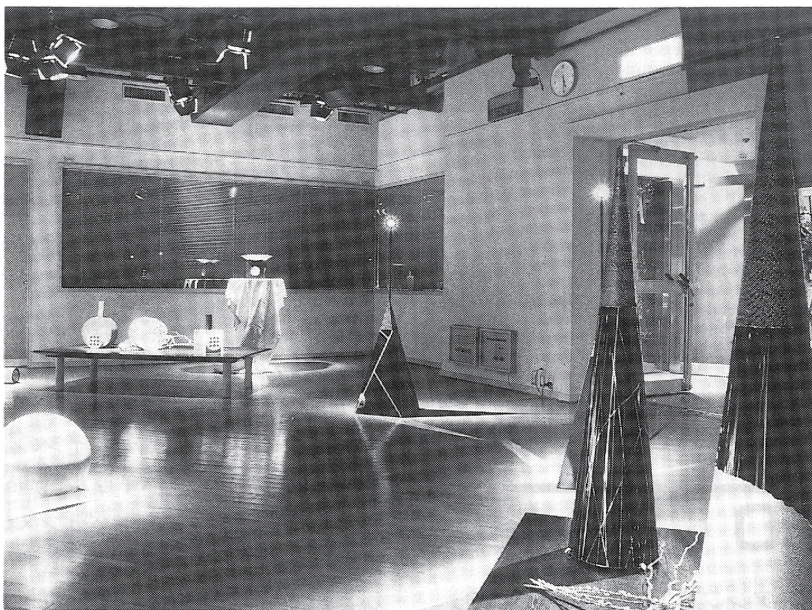
もある。

しかしインテリア関係や建築音響の分野では無骨なスピーカーシステムが嫌われ、B&Oなどが好まれることも多いが、それでもスピーカーシステムの形状という既成概念から解き放たれたとは必ずしも言えない。

建築音響設計家の唐澤誠氏は以前からこの点に着目し、空間や環境を意識したオーディオシステムに高い関心を寄せていた。今回スピーカーシステムの個展を開催するにあたって唐澤氏がまず第一に考えていたことは、恐らくデザイン上のブレイクスルーであろうということが容易に想像できる。写真を見ればわかるように、スピーカーと言うよりはむしろオブジェと言うべきこれらの「和



銀座SOMIDO531／12月3日～12月6日



のスピーカー」は、工芸品のような仕上げを施されたものもあれば、インダストリアルデザイン的なものもある。どれも非常にユニークなものばかりで、中にはこのまますぐにも商品化できそうなものもある。

それぞれのスピーカーは設置された「場」において独特の空間を醸し出し、また互いに影響しあって会場全体をひとつの環境ディスプレイとして提示する。これは今回の個展の狙いであり、スピーカー設計者やデザイナーなどの常識に一石を投じたことと確信している。

なお一部のスピーカーのドライブには佐久間駿氏製作の真空管アンプが使用されていたことを付け加えておく。(S)

撮影：MJ編集部

